

**2020年12月期  
通期決算説明  
質疑応答(要旨)**

**2021年3月2日 10:30-11:30**

**株式会社キッツ**

# 質疑応答要旨①

No.	項目	Q	A
1	価格改定	国内市場で価格改定を実施することのことだが、海外では実施しないのか。	北米、アセアンで実施する予定。(一部は実施済み)
2	価格改定	価格改定に伴う、「駆け込み需要」については、どうコントロールするのか。	いわゆる「駆け込み需要」については、3月中受注し、4月から、数か月間で分納していく予定。
3	価格改定	価格改定による効果はどのように出てくるか。	上期はそれほど大きな効果は出ないが、下期に効果が出てくると見込んでいる。来期上期も効果は継続する。
3	バルブ事業 2021年12月期 営業利益増減分析	数量・構成差のマイナスが大きいのはなぜか。	コロナ禍もあり、国内外で販売量・生産量が落ちている。特に、タイ・中国の生産量減少により、原価率が上がっている影響が大きい。
4	バルブ事業 生産	バルブ生産のために調達する(予約する)銅の量はどの程度か。	国内工場ではスクラップをメインに約1-2か月分、海外工場ではインゴットをメインに約3か月分。
5	半導体製造装置向け	2021年12月期の半導体製造装置向け売上は、上期と下期でどのような配分か。	上期と下期で大きな差はなく、ほぼ横ばい。装置メーカーからの受注に左右されるが、基本的には好調が継続すると見込んでいる。

## 質疑応答要旨②

No.	項目	Q	A
6	社長交代	3月末で社長が交代するとのことだが、堀田社長在任中の成果と積み残した課題は？	「真のグローバル企業」への進化を目指し、海外で6社のM&Aを行ってきた。バルブ事業の海外売上高比率は28%から38%に上昇しており、グローバル化はある程度進んだと言えるのではないかと。一方で、買収時の評価やPMIの甘さもあり、減損損失を計上した案件があったことは、反省点。
7	ROEなど	ROEが低水準にとどまっており、PBRも1倍を下回っており、足元の株価は低迷しているが、経営陣の考え方は？	新型コロナウイルス感染拡大の影響もあるが、ROEは足元では4.5%という低水準であることは課題と認識しており、利益をきちんと出し、少なくとも8%水準まで戻していきたい。そのためには、投下資本やグループ一貫損益の視点から、選択と集中を行い、低採算製品の見直しを進めていく必要がある。 資本政策については、自己株取得を積極的に進めてきた。
8	社長交代	河野新社長が、重点的に取り組みたいのはどのようなことか。	①収益構造を変えていく 攻めと守りの両方を重視し、両利き経営により、製品のポートフォリオ変革を進めたい。 ②グローバル化 堀田社長の進めてきたグローバル化を更に進めていく方針であり、特に重視するエリアは、北米、アセアン、中国。 ③脱炭素社会、デジタル化 脱炭素に向け、新たな事業を展開し、DX(デジタルトランスフォーメーション)に注力していく方針。